

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月4日(月) 11:30～11:35 於) 檜葉町)

1. 発言要旨

今日は檜葉町の商業施設と交流施設の起工式に参りました。

今日は9月4日です。2年前の9月5日にこの檜葉町は避難指示解除になりまして、帰ってくることができました。

特に今年の4月、小学校、中学校、そして「あおぞらこども園」という幼児の施設がオープンしました。小学校の子どもたちは、「友達が檜葉に戻るんだから、お父さん、お母さん、僕たちも檜葉の町に戻ろうよ」と言って、お父さん、お母さんを説得して戻ったという例もございます。また、ここ檜葉町の小学校、中学校、こども園は檜葉町以外の子どもたちも預かっている、入学ができるという、今、檜葉町長に聞けば、富岡町も帰還するというのはなかなか困難な状況にございますので、子どもたちを預かっているんだという、そういう発想のもとで学校を再開しているということでございます。

この二つの施設が完成すれば、ここは「笑ふるタウン」でございますので、病院もそろっているし、復興住宅もそろっているし、本当ににぎわいの拠点となる、そして多くの町民の方々が帰還する、そういうすばらしい施設になるということを信じております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今、「笑ふるタウン」の効果といいますか、期待感をおっしゃっていただきましたけれども、町内居住率が25%超となりましたが、まだまだ若い世帯とかも帰ってきていない現状があると思いますが、こういった取組が更に必要だと思いますか。

(答) やはり町というのは、「老・壮・青」、こういうバランスで町の役割は成り立っておりますので、特に若い方々がどう帰ってくるか、これが一番の課題になろうかと思います。

そういう意味でも小学校、中学校、こども園が開校しました。その中で檜葉町長には本当に頑張ってください、110名を超える児童・生徒と48名の小さな小さなこども園の子どもたちを迎えております。そういうことも踏まえて、もうここはきちんと放射線は大丈夫なんだよということをきちんと知らしめて、多くの若い方々をこれから取り戻していきたい。復興庁としても、町長のバックアップをさせていただきたい、このように考えています。

(問) 「笑ふるタウン」のオープンが来年の春ということで、改めて、

この「笑ふるタウン」が檜葉町のどういう存在になることを期待していらっしゃるでしょうか。

(答) まずネーミングですね。笑顔なんです。笑顔の町というネーミングでございますので、これはすばらしいネーミングだと思います。

この「笑ふるタウン」で、本当に復興が進んでいる。商業施設、そして交流施設、また医療、診療所から歯医者まで、ここに来れば、ほとんど全てのものがそろっているという中心地でございますので、やはり戻ってくる方々は、お医者さんはどうなんだ、商業施設はどうなんだと、いわゆる日常の生活環境をきちんとできる、ある意味で最低限で施設がないとなかなか戻ってこないわけでございますので、そういう意味では、全てがそろっているというところですので、帰還の促進の拠点となるというふうに考えております。

(以 上)